

お詫びとご報告

この度、当センターにおいて、某部のがんの治療のためにがんの裏側に埋め込み使用するルテニウム 106 治療用線源が、平成 23 年 10 月 3 日夕方に、見当たらないことが判明いたしました。

直ちに院内を捜索いたしましたが、確認できなかつたため、同日夜に当センターの放射線安全管理委員会を開催し、調査を行った結果、9 月 30 日 17 時 30 分ごろに行ったルテニウム小線源抜去術を行った患者から抜去した線源を感染性廃棄物と一緒に誤廃棄したものと判断いたしました。当廃棄物の行方を廃棄物処理業者に確認をしたところ、焼却処理したと報告を受けました。なお、当焼却炉での最高温度は 800℃であり、本器材の融点はルテニウム 2310℃、銀 961℃であり、融解の恐れはございません。

当該放射線源は、手術で使用する如く、接してはじめて放射線の影響がある線源で、1 メートル離れた場所での放射線量は、約 0.2 μ Sv/時であり、健康被害が生じるものではございません。

また、本件については、昨日のうちに文部科学省等の関係部署に連絡を行っております。

最先端のがん医療を担う当センターにおいて、放射線源の不適切な処置は、国民の皆様に対して大変申し訳ない思いです。

本件は、手術が始まった時間が遅かつたため、通常行っている手順での手術後の線源の処理を行わなかつたことにより生じたものです。今後は手術の管理体制及び放射線源の管理について新たなシステムを構築し、二度と生じないよう万全の対策を講じてまいります。

平成 23 年 10 月 4 日
国立がん研究センター理事長
嘉山 孝正